



新研究科の概要

1専攻化し、3研究領域に再編、教育は専攻単位で実施する。学生は主指導教員の所属する領域に所属するが、研究指導は領域の垣根を超えて専攻全体から指導教員を選択可能とし、垣根を超えた学際研究を可能にする。

【改組前】連合農学研究科

(入学定員23人) [学生100人, 教員180人]

生物生産科学専攻 (入学定員7人)

熱帯資源・植物生産科学連合講座
動物資源生産科学連合講座
地域・国際資源経済学連合講座

応用生命科学専攻 (入学定員8人)

生物機能化学連合講座
食品機能科学連合講座
先端応用生命科学連合講座

農水圏資源環境科学専攻 (入学定員8人)

生物環境保全科学連合講座
地域資源環境工学連合講座
水産資源環境科学連合講座



【改組後】連合農学研究科

農水生命科学専攻 (入学定員30人)

農水圏生産科学領域

農学, 林学, 畜産学, 水産学が融合した生物生産科学研究領域

生物資源生命科学領域

陸域と水域の生物資源の機能性を解明し, 資源の有効かつ持続的な利用と豊かな食生活に資する生命科学系研究領域

地域環境共生科学領域

環境と調和した農林水産業, 畜産業に資する農林・環境・防災科学と, 一次産業を主体とした地域社会の自律的な発展を導く社会科学, 化学, 工学系文理融合研究領域

1専攻化の改組によって何が変わるのか？1専攻化のメリット

- **柔軟な教育研究組織の構築**: 1専攻3研究領域による, 大きな枠組みで柔軟な教育研究組織が構築され, 学生が希望する研究領域で研究できるようにする。各領域そのものも多様な研究分野で構成されるが, 指導教員3人の選択は研究科全体の180人から選択可能とすることで, 時代のニーズに沿った学際的な研究が重点的に推進され, イノベーションをもたらす新領域の創成が可能になる。
- **学位の種類やキャリアパスに対応したカリキュラム**: 1専攻化でカリキュラムを共通化した上で, 学位の種類(農学, 水産学, 学術)やキャリアパス(企業, 研究機関の研究者, 大学教員等)に即したキャリア開発科目の履修を可能とし, 大学教員, 研究機関・企業研究員, 社会でひろく活躍する博士人材など, 多様なキャリアパスに対応
- **社会のニーズに即したキャリア開発とデータサイエンス教育の強化**: 社会で活躍する学位取得者や実務家教員による講義や最新のデータ解析法, 研究や大学での教授法向上のためのインターン強化し, キャリア開発の実現に貢献
- **多様な入学希望者のニーズに沿った入試方法の改正**: 進学者を対象とした一般選抜と, 一定の研究能力を有する外国人留学生・社会人特別選抜に入試を分け, 標準修業年限での学位取得能力を評価